

## 6-3.文化・スポーツ・観光施設

### 6-3-1.ホール施設【7施設】

#### (1)施設の概要

ホール施設は、市民会館(大ホール)・やまぶき会館(中ホール)・分室(川越駅東口多目的ホール)、南文化会館、西文化会館、北部地域ふれあいセンター及び東部地域ふれあいセンターの7施設を対象とします。

市民会館・やまぶき会館・分室、南文化会館、西文化会館は、川越市文化施設条例に位置付けられた文化施設であり、設置目的は「市民の文化の向上及び福祉の増進を図るため」とされています。2012年3月現在、市民会館分室を除く各施設は、指定管理者制度を採用し、(財)川越市施設管理公社が運営にあたっています。中でも市民会館は1964年に開館し、本市の発展に貢献してきました。

北部地域ふれあいセンター及び東部地域ふれあいセンターは、川越市地域ふれあいセンター条例で位置付けられた施設であり、設置目的は「市民に文化活動及び学習の場を提供することにより市民の相互交流を図り、もって市民の文化の向上及び豊かな地域社会づくりに資するため」とされています。これらは、住民管理方式を採用し、それぞれ特定非営利活動法人川越市北部地域ふれあいセンター運営協議会及び特定非営利活動法人川越市東部地域ふれあいセンター運営協議会が指定管理者として運営にあたっています。



西文化会館

【図6-3-1-1】施設一覧

	施設名	所在地	面積 (㎡)				最大ホール 席数	開館日 開館時間	休館日
			土地	うち借地	建物	うち借家			
1	市民会館(大ホール)	郭町1丁目18-7	7,449.21	4,065.09	4,482.75	0.00	1,261	9:00 - 21:30	毎週火曜日(祝日・国民の休日場合は翌日)及び年末年始
2	やまぶき会館(中ホール)	郭町1丁目18-7			4,909.12	0.00	518	9:00 - 21:30	
3	川越駅東口多目的ホール (市民会館分室)	菅原町23-10	1	0.00	426.18	0.00	204	9:30 - 21:30	
4	東部地域ふれあいセンター	並木452-1	3,405.53	867.00	977.44	0.00	200	9:00 - 21:00	
5	南文化会館(ジョイフル)	今福1295-2	14,670.00	0.00	4,297.60	0.00	368	9:00 - 21:30	
6	西文化会館(メルト)	鯨井1556-1	8,848.89	2,532.00	3,191.34	0.00	352	9:00 - 21:30	
7	北部地域ふれあいセンター	山田1578-1	3,675.00	3,675.00	1,259.48	0.00	201	9:00 - 21:00	

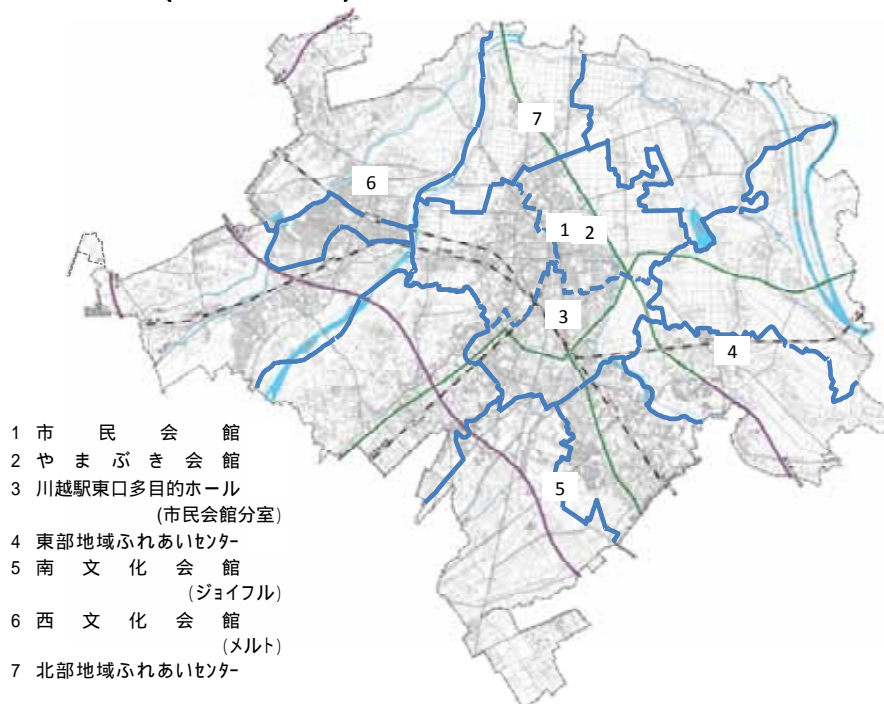
1 複合施設のため 川越駅東口図書館に記載

中核市平均によると、公会堂・市民会館は3.8施設配置されています(本市は、市民会館・西文化会館・南文化会館の計3施設)。公会堂・市民会館の多い市は、富山市(9施設)、大津市(9施設)、長野市(8施設)、長崎市(8施設)です。一方、公会堂・市民会館の少ない市は、秋田市、宇都宮市、姫路市、和歌山市、高松市で、市内1施設です。

本市の文化施設は、市の東西南北に施設を設置するブロックセンター構想に基づいて、西部地区及び南部地区にそれぞれ西文化会館、南文化会館を設置しました。

その後、年月の経過とともに社会情勢などが大きく変化したことに伴い、ブロックセンター構想にある地域文化活動の中核施設としての機能は残しながら、規模を縮小し、地域住民が使いやすい比較的小規模な、北部地域ふれあいセンター、東部地域ふれあいセンターを、文化施設とは位置付けを変えて新たに設置しました。

### 市内配置図(ホール施設)



県内類似市との比較では、2,000人規模の大ホールを所有する市がある中、本市は1,200席程度であり、県内類似市よりも少なくなっています。しかし、東武東上線沿線の市では、和光市や坂戸市などと同規模のホールを所有している状況にあります。

【図 6-3-1-2】県内類似市比較

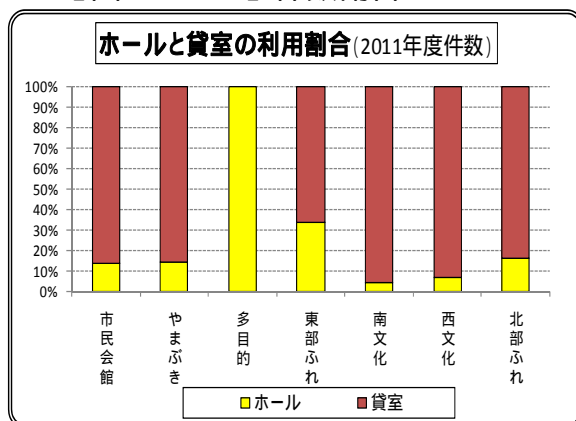
	施設名	最大ホール客席数	施設利用者数
川越市	市民会館	1,261	220,534
川口市	川口総合文化センター	2,002	290,178
所沢市	所沢市民文化センター「ミューズ」	2,002	457,530
越谷市	越谷コミュニティセンター	1,675	446,371

利用者数は、2011年度数値。なお、川口市はメインホールのみ数

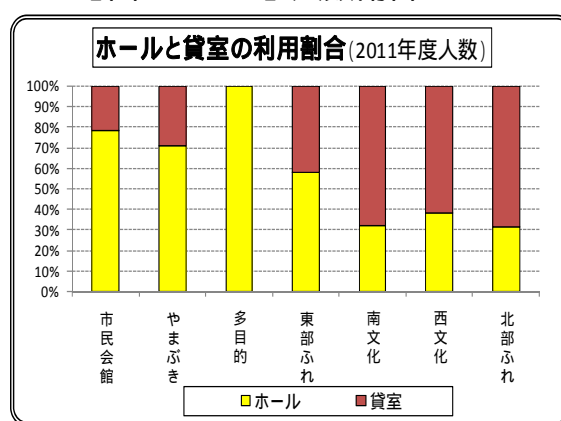
## (2) 利用の実態

各施設のホールと貸室の利用割合は、市民会館は、ホール利用件数の割合は10%強ですが、利用人数の割合は、ホール利用者が80%弱となっています。また、川越駅東口多目的ホールは、設備がホールのみとなっているため、利用人数、件数共に100%となっています。

【図 6-3-1-3】件数割合



【図 6-3-1-4】人数割合

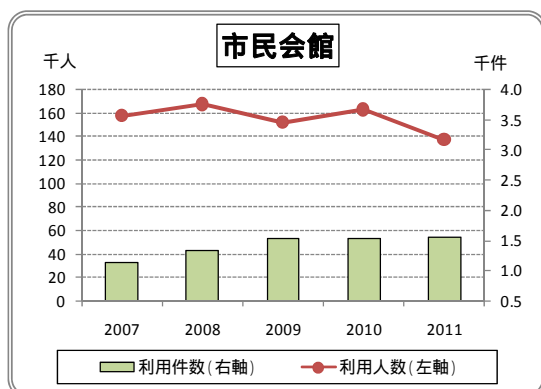


利用状況(利用者数及び利用件数)の推移について、館としての利用に大きな変動はありません。各施設の利用件数は貸室の数に比例する傾向があり、利用人数はホール客席数により多くなる傾向があります。

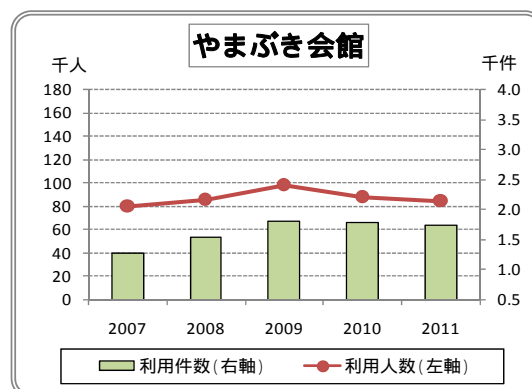
市民会館の利用人数は2010年から2011年にかけて減少しましたが、震災の影響によるものであり、利用件数は増加傾向にあります。西文化会館や南文化会館も、利用人数に大きな変化はありませんが、利用件数は増加傾向にあります。このことは、1件あたりのイベントなどの規模は小さくなりつつも活動場所を求める件数が増えていることを指しています。そのため、ホール施設は、利用者数と利用件数の両者から分析することが重要です。

東部地域ふれあいセンターの利用人数及び利用件数は増加傾向にあります。これは、2008年の開館後、施設が利用者に周知されてきたことも要因の一つと考えられます。

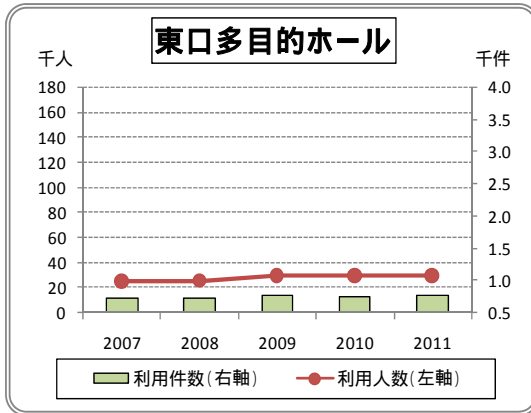
【図 6-3-1-5】市民会館



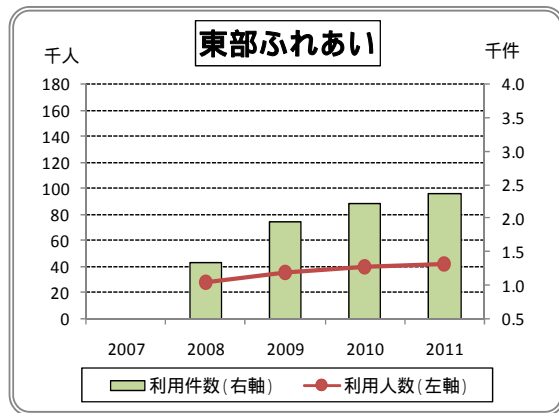
【図 6-3-1-6】やまぶき会館



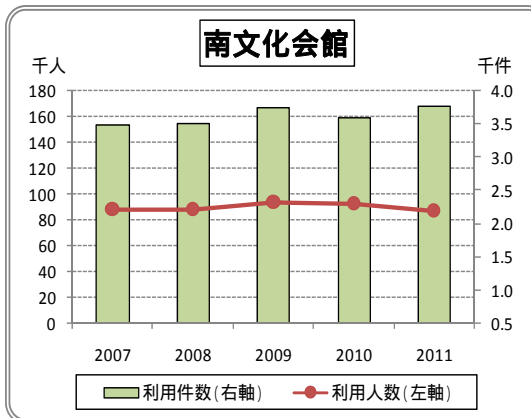
【図 6-3-1-7】東口多目的ホール



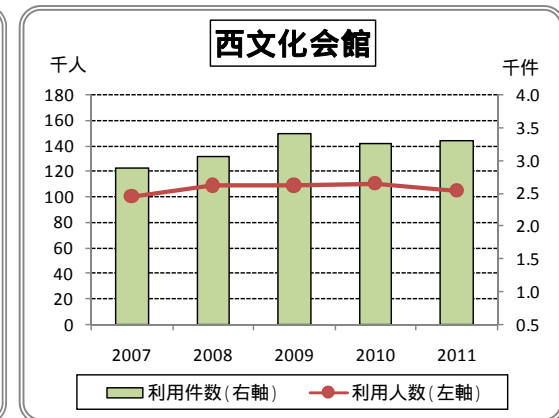
【図 6-3-1-8】東部地域ふれあい



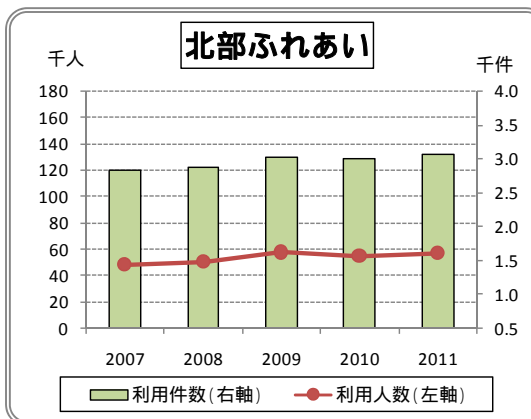
【図 6-3-1-9】南文化会館



【図 6-3-1-10】西文化会館



【図 6-3-1-11】北部地域ふれあい

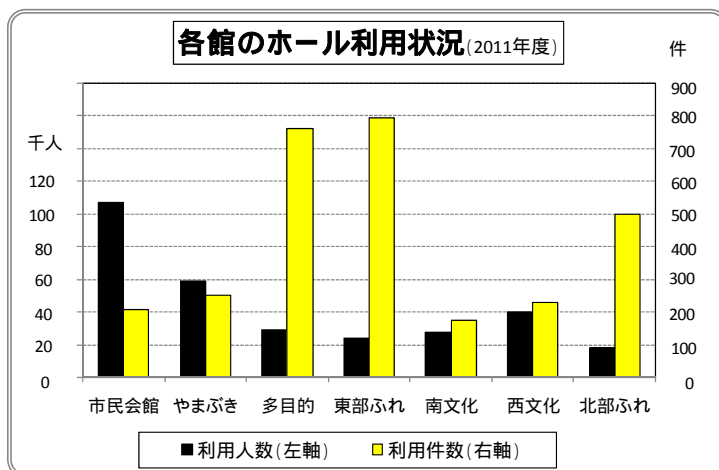


各館のホール部分の利用状況【図 6-3-1-12】によると、200人規模のホール(川越駅東口多目的ホール、東部地域ふれあいセンター、北部地域ふれあいセンター)の利用件数が他館に比べて多いことが分かります。

また、ホールの大きさによって、利用件数は多いが、利用人数は比較的

少ない施設や、利用件数は少ないが、利用人数は非常に多い施設など、様々な要因を勘案しながら施設を分析する必要があります。

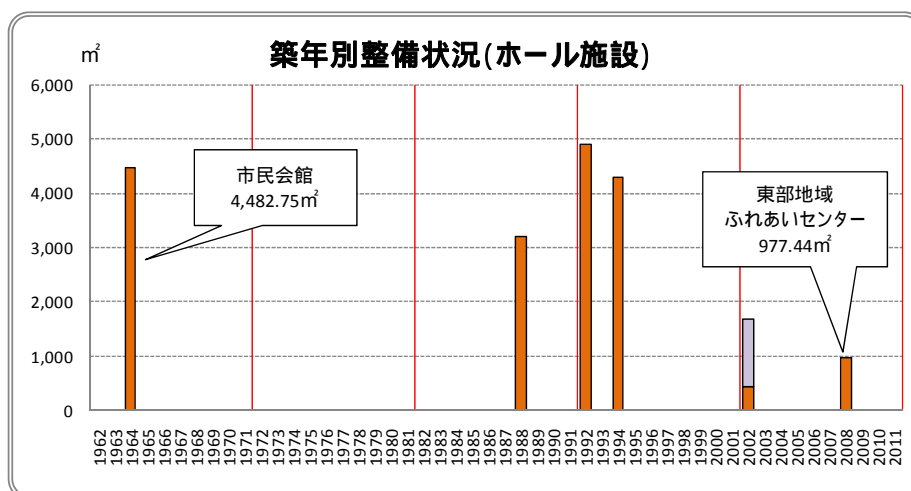
【図 6-3-1-12】 ホール部分の利用状況



### (3)施設の物理的状況

ホール施設は、市民会館建設の後、年度を分散して整備されています。地域ふれあいセンターは比較的新しく整備されましたが、川越駅東口多目的ホールを除く文化施設は経過年数が少ない施設でも18年を超えており、施設の特殊性を考慮すると老朽化が進んでいます。中でも市民会館は、建築後47年が経過し、2010年には大ホール天井補強工事を実施しました。

【図 6-3-1-13】 築年別整備状況



文化施設や地域ふれあいセンターは、市民が使う施設として、バリアフリー化が進んでいます。

【図 6-3-1-14】スペック一覧表

	施設名	構造	老朽化状況		耐震補強	バリアフリー					環境対応			
			建築年	経過年数		車椅子用エレベータ	手すり	車椅子用スロープ	障害者用トイレ	自動ドア	点字ブロック	太陽光発電	屋上・壁面緑化	環境対応設備
1	市民会館（大ホール）	RC造	1964	47	未済	×						×	×	×
2	やまぶき会館（中ホール）	SRC造	1992	20	不要							×	×	×
3	川越駅東口多目的ホール（市民会館分室）	SRC造	2002	10	不要				×				×	×
4	東部地域ふれあいセンター	S造	2008	4	不要	×							×	
5	川越南文化会館（ジョイフル）	RC造	1994	18	不要							×	×	×
6	川越西文化会館（メルト）	RC造	1988	23	不要							×	×	×
7	北部地域ふれあいセンター	S造	2002	9	不要	×					×		×	

(4) コスト分析

全体的に支出が収入を大幅に上回っている状況にあります。

主に指定管理料にあたる外部委託料の割合が大きく、規模や設備、人件費の基礎が異なるので一概には言えませんが、やまぶき会館の費用も支出している市民会館が他館よりもコストが高くなっています。一方、川越駅東口多目的ホールは、文化施設のように固定席を持ったホールでなく、複合施設の1フロアであることが、他よりコストが低い一因と考えられます。

また、市民会館・やまぶき会館、西文化会館、東部地域ふれあいセンターでは駐車場の一部が借地、北部地域ふれあいセンターでは敷地全てが借地となっています。なお、クラッセ川越が、川越都市開発株式会社から賃借している駐車場を使用しています。

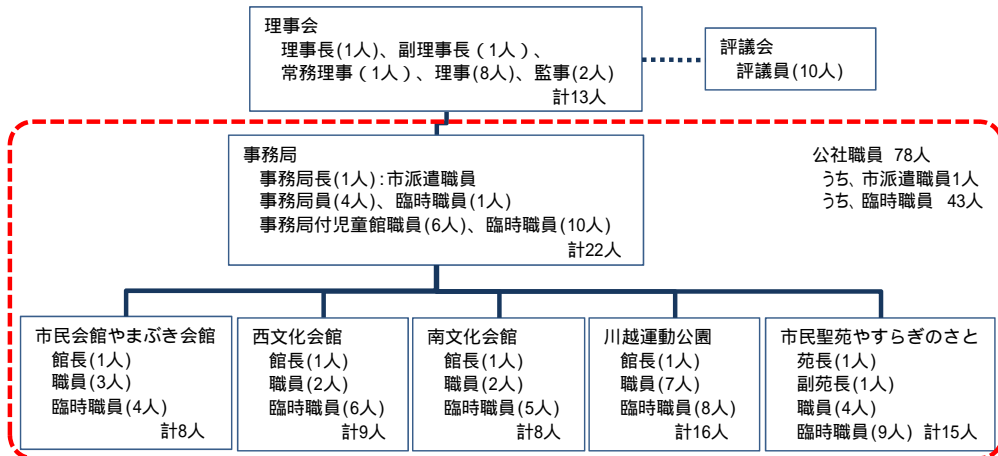
【図 6-3-1-15】コスト一覧表

	1	2	3	4	5	6	7	
ホール施設	市民会館	やまぶき会館	川越駅東口多目的ホール 2	東部地域ふれあいセンター	南文化会館	西文化会館	北部地域ふれあいセンター	合計
光熱水費	-		957,294	-	-	-	-	957,294
修繕費	-		-	-	9,345,000	-	-	9,345,000
外部委託料 3	157,413,000		5,600,928	17,499,644	77,726,000	65,775,000	19,180,692	343,195,264
使用料及び賃借料	3,475,300		1,393,730	1,266,972	-	6,154,500	3,768,756	16,059,258
備品購入費	898,590		-	-	529,095	480,165	-	1,907,850
工事請負費等	-		-	-	-	4,536,000	-	4,536,000
施設にかかるコスト計	161,786,890		7,951,952	18,766,616	87,600,095	76,945,665	22,949,448	376,000,666
講師等報償費	-	1	-	-	-	-	-	0
消耗品費等	-		28,994	-	-	-	-	28,994
通信運搬費等	-		7,980	85,950	-	-	88,070	182,000
補助金等	62,400		-	-	-	-	-	62,400
人件費	-		-	-	-	-	-	0
事業にかかるコスト計	62,400		36,974	85,950	0	0	88,070	273,394
支出合計	161,849,290		7,988,926	18,852,566	87,600,095	76,945,665	23,037,518	376,274,060
補助金等	-		-	-	-	-	-	0
使用料等	40,813,260		2,759,100	2,703,825	17,838,630	17,978,320	3,599,775	85,692,910
その他収入	815,455		-	-	188,944	189,021	-	1,193,420
収入合計	41,628,715		2,759,100	2,703,825	18,027,574	18,167,341	3,599,775	86,886,330
収支差額	120,220,575	1	5,229,826	16,148,741	69,572,521	58,778,324	19,437,743	289,387,730
土地評価単価	128,000		266,000	69,900	34,200	89,700	借地	
	(借地あり)		(借地あり)		(借地あり)		(借地あり)	

- 市民会館とやまぶき会館は複合施設のため、やまぶき会館のコストは市民会館に含まれます。
- 川越駅東口多目的ホールの光熱水費、施設管理委託料、駐車場使用料は複合しているその他施設と面積按分しています。
- 市民会館・やまぶき会館・東部地域ふれあいセンター・南文化会館・西文化会館・北部地域ふれあいセンターの外部委託料の中には指定管理料が含まれます。

川越駅東口多目的ホール及び地域ふれあいセンターを除く文化施設は、川越運動公園、市民聖苑やすらぎのさとと同様に指定管理者の(財)川越市施設管理公社が運営しています。

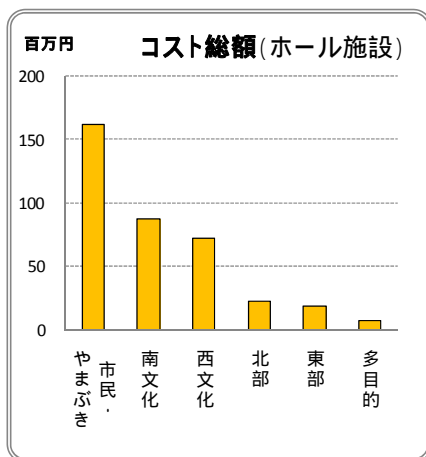
【図 6-3-1-16】施設管理公社の組織体制(2012年3月31日現在)



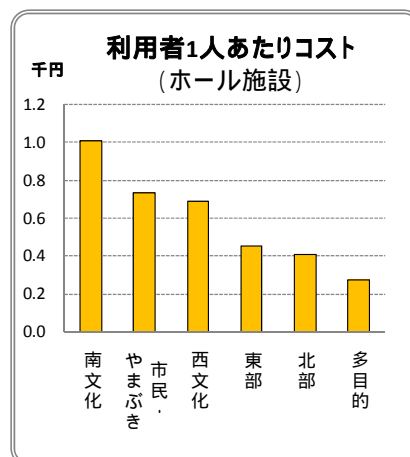
コスト総額は、施設の大きさにより、コストが高くなっています。一方で、利用者1人あたりのコストは、規模が大きく駅から離れた場所に整備されている南文化会館のコストが比較的高くなっており、アクセスの面からも、ホールの利用者数が他館より低いことが一因と考えられます。また、利用1件あたりのコストでは、市民会館のコストが高くなっており、ホールの規模が大きいいため、件数が増えにくいことが一因と考えられます。

施設使用料による受益者負担率は、公の施設の選択的・公共的サービスの負担率が公費50%・利用者負担が50%と設定されている中、全ての施設でこの基準を下回っています。これについて、施設の使用料金を、受益者負担の観点、及び他の有料施設の状況などを考慮して検討を進めているところです。

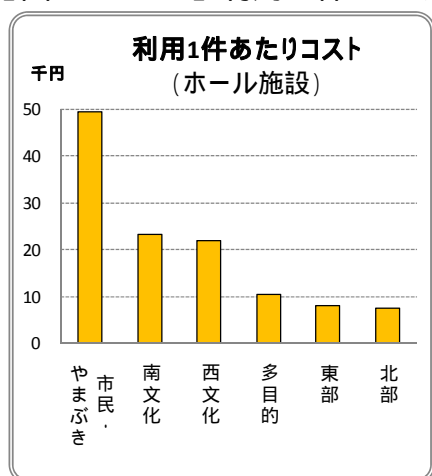
【図 6-3-1-17】コスト総額



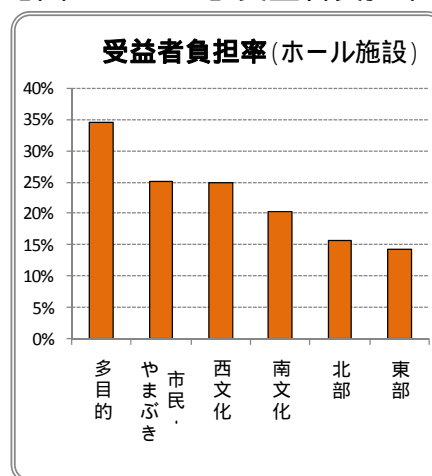
【図 6-3-1-18】利用者あたりコスト



【図 6-3-1-19】利用 1 件あたりコスト



【図 6-3-1-20】受益者負担率



#### (5)まとめ

文化施設は、施設の老朽化が進んでいる現状にあります。老朽箇所などの修繕・改修を計画的に行うことで、機能の改善を図ることが必要ですが、本市の財政状況が大変厳しい中で、十分な修繕や改修が行き届いていない状況となっています。

特に市民会館は、1964年に開館した市内で最も古い文化施設であり、老朽化が著しい状況です。市民会館の代替施設として、川越駅西口に整備する西部地域振興ふれあい拠点施設(仮称)内にホールが建設されることから、施設開業後の適切な時期に、閉館を予定しています。

一方、地域ふれあいセンターは、収入は少ないですが規模が小さく、コストも抑えられています。したがって、相対的にみると、運営状況は良好と言えます。管理の主体が地元の団体の代表者で構成される法人であることから、今後も地域に根差した運営が行えるという強みを活かした、地域社会づくりに資する運営が期待されています。



## 6-3-2. スポーツ施設【3施設】

### (1) 施設の概要

スポーツ施設は、川越運動公園、武道館及び社会体育館(芳野台体育館)の3施設を対象とします。



川越運動公園(総合体育館)

川越運動公園は、川越市都市公園条例に位置付けられています。市制60周年記念事業として1982年から整備に着手し、2000年度に完成した日常スポーツから各種イベントまで幅広く活用できる公園であり、そのうち陸上競技場、総合体育館、テニスコートが有料の公園施設とされています。

なお、川越運動公園内に3施設があることから、本白書ではできる限り細分化して検証します。(3施設以外の公園内トイレなどの面積は、総合体育館等に含めています。)

武道館は、川越武道館条例に位置付けられています。1974年に「市民の健康と体力の増進に寄与する」ことを目的とし、旧厚生省(雇用能力開発機構関係施設)が建設をしましたが、2002年に厚生労働省から払い下げを受けました。

社会体育館(芳野台体育館)は、川越市社会体育館条例に位置付けられ、目的は「市民のスポーツの振興を図り、もって市民の健康的な生活に資する」とされています。社会体育館は中高年齢労働者福祉センターに隣接し、予約や受付などの事務は中高年齢労働者福祉センター内の事務室で行われています。

なお、川越運動公園内の3施設は(財)川越市施設管理公社が、武道館は(社)川越市シルバー人材センターが、社会体育館は(財)川越市勤労者福祉サービスセンターが、それぞれ指定管理者として運営しています。

【図6-3-2-1】施設一覧

	施設名	所在地	面積 (㎡)				開館時間	休館日
			土地	うち借地	建物	うち借家		
1	武道館	郭町2丁目30-1	1,860.59	0.00	2,238.41	0.00	9:00～17:00	火曜日 1 年未年始
2	社会体育館 (芳野台体育館)	芳野台1丁目103-57	2,239.85	0.00	768.15	0.00	(平日) 9:00～21:00 (日曜・祝日) 9:00～17:00	月曜日 年未年始
3 の内訳	川越運動公園	下老袋388-1	141,734.27	4,707.00	16,673.82	0.00		火曜日 1 年未年始
	陸上競技場				(5,962.01)		9:00～17:00	
	総合体育館等				(10,578.70)		9:00～21:00	
	テニスコート				(133.11)		9:00～21:00	

運営主体は指定管理者

1 祝日の場合はその翌日

中核市平均では、体育館は7.6施設配置されており、延床面積の平均は、

約 25,000 m<sup>2</sup>です。(本市は、総合体育館と社会体育館の 2 施設 11,045 m<sup>2</sup>)  
 また、中核市のうち陸上競技場のある市は、41 市中 35 市(川越市を含む)  
 で、敷地面積の平均は約 40,000 m<sup>2</sup>です。

### 市内配置図(スポーツ施設)



【図 6-3-2-2】県内類似市比較 最大のスポーツ施設(体育館)

	施設名	メインアリーナの面積(m <sup>2</sup> )	利用者数
川越市	川越運動公園総合体育館	2,537	288,176
川口市	川口市立芝スポーツセンター	2,220	95,683
所沢市	市民体育館	4,200	303,800
越谷市	越谷市立総合体育館	2,560	334,222

利用者数は、2011年度数値。なお、川口市はメインアリーナのみ利用者数

川越運動公園総合体育館は県内で大きいといわれる体育館のひとつではありますが、面積だけをみれば県内類似市と同規模と言えます。また、他の中核市と比較すると小さいです。

【図 6-3-2-3】県内類似市比較 最大のスポーツ施設(競技場)

	施設名	敷地面積(m <sup>2</sup> )	延床面積(m <sup>2</sup> )
川越市	川越運動公園陸上競技場	27,350	5,962
川口市	川口市青木町公園総合運動場	22,695	1,037
所沢市	無し		
越谷市	しらこぼと運動公園競技場	29,576	2,195

調整池・植樹帯等を除く面積。

川越運動公園陸上競技場は、二種公認の競技場であり、県内でもトップレベルの規模です。また、競技場内には、天然芝のサッカー場も完備しています。

## (2) 利用の実態

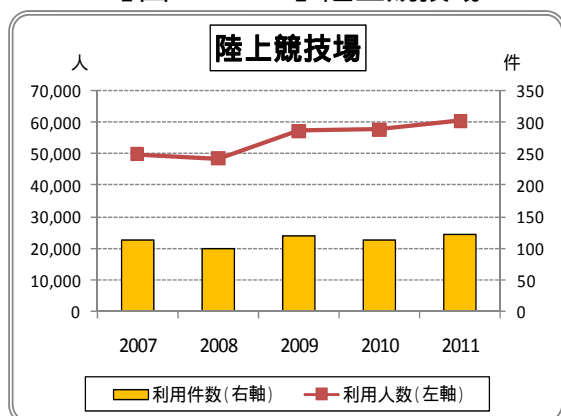
陸上競技場は、過去3年で、連盟・団体などが使用する専用利用は横這いですが、個人利用の件数が増加傾向にあります。

総合体育館は、2011年は、人数をみれば過去5年で最高値ですが、利用件数で見れば微増です。土日祝日の利用は各種競技の大会などにより飽和状態となっており、平日利用が増えたことが要因と言えます。

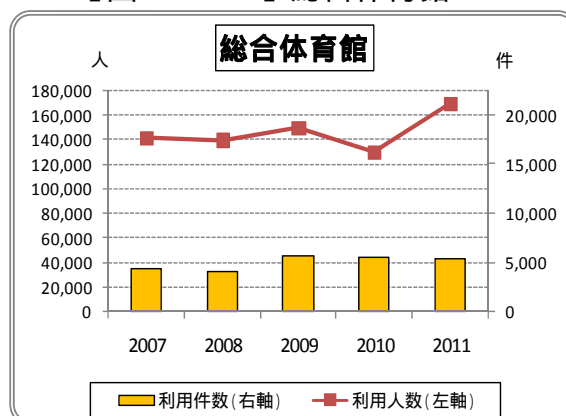
テニスコートは、2011年は、人工芝の一部張替工事があったため、件数・人数が減少しましたが、利用可能な日時はほぼフル稼働状態となっており、各種大会などのスケジュール調整にも影響が出ている状況です。

武道館は、施設の老朽化に併せて、利用人数が減少傾向にあります。

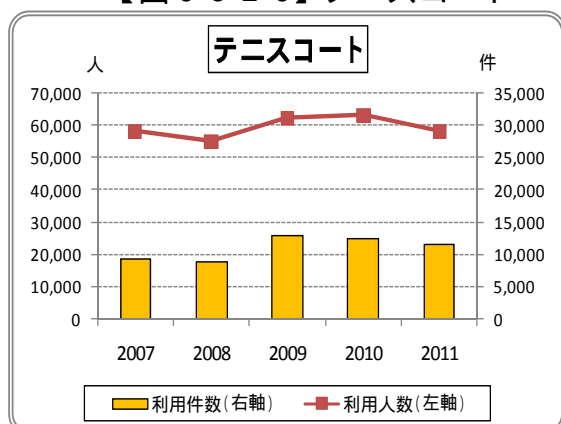
【図 6-3-2-4】陸上競技場



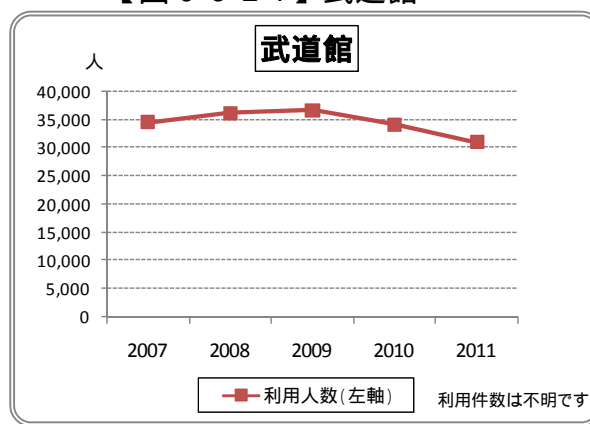
【図 6-3-2-5】総合体育館



【図 6-3-2-6】テニスコート



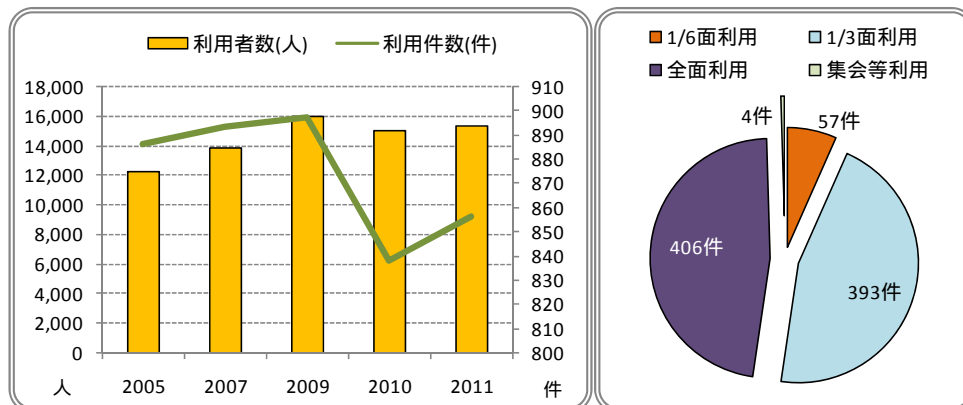
【図 6-3-2-7】武道館



社会体育館の利用件数は、850～900件/年で推移し、利用者は増加傾向です。2011年度の利用者は15,680人であり、開館日1日あたりの利用者は約51人です。

社会体育館は、全面(バレーボールコート1面分)、3分の1面(バドミントンコート1面分)、6分の1面(卓球台2台が使用できる広さ)で貸出していますが、全面利用と3分の1面での利用で全体の92.9%を占めます。

【図6-3-2-8】社会体育館の利用者数の推移と利用件数の内訳



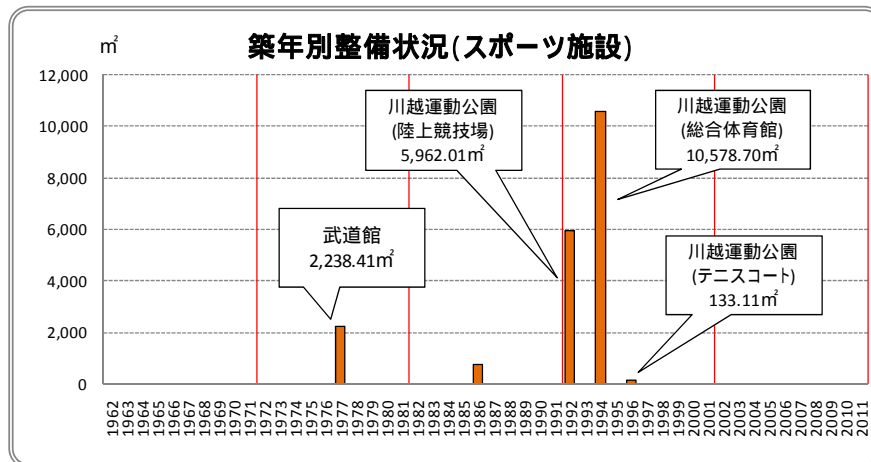
### (3)施設の物理的状況

川越運動公園は、建設してから20年弱ですが、バリアフリー対応は行っています。しかし、2012年3月現在、施設を整備する時のコンセプトである環境対応・自然エネルギー利用の対策はとれていません。太陽光発電などの取り付けも可能ですが、県内有数の規模である総合体育館の維持管理費用がかさみ、環境対応への取組まで対応できない状況にあります。

武道館は耐震補強工事が未済であり、Is値は0.6の基準値を下回る0.25となっています。

社会体育館の耐震性能は問題ありません。

【図6-3-2-9】築年別整備状況



【図 6-3-2-10】スペック一覧表

	施設名	構造	老朽化状況		耐震補強	バリアフリー						環境対応		
			建築年	経過年数		車椅子用エレベータ	手すり	車椅子用スロープ	障害者用トイレ	自動ドア	点字ブロック	太陽光発電	屋上・壁面緑化	環境対応設備
1	武道館	RC造	1977	35	未済	×	×	×	×	×	×	×	×	×
2	社会体育館（芳野台体育館）	RC造	1986	26	不要	×	×			×	×	×	×	×
3	川越運動公園	RC造	1994	17	不要							×	×	×

#### (4) コスト分析

スポーツ施設は、全ての施設が指定管理者制度で運営されており、支出は外部委託料のみとなっています。

川越運動公園の陸上競技場・総合体育館・テニスコートの人件費は全額総合体育館に計上されており、また、按分できない費用を総合体育館に計上しているため一概には言えませんが、他よりも委託料が高くなっています。県内有数の規模を誇るスポーツ施設を維持管理していくことは、相当の維持管理費が必要なことが推察されますが、維持管理のあまりかからない、屋外施設のテニスコートと各種団体などが主催する各種大会・イベントを行う屋内施設の総合体育館では、受益者負担率も大きく異なり、単純な比較は困難です。

総合体育館の使用料は、近隣市町村に比べてやや高めですが、受益者負担率では、極めて低い数値となっており、やはり総合体育館にかかる維持管理費が比較的高いことが考えられます。

なお、川越運動公園内3施設の指定管理者である(財)川越市施設管理公社の組織体制は、「6-3-1.ホール施設」に記載しています。

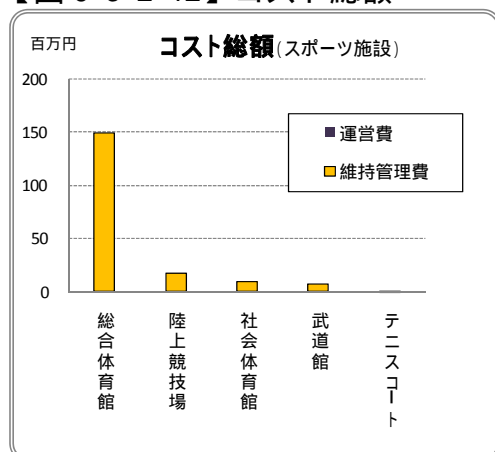
武道館の利用者1人あたりのコストは約250円/人、社会体育館の利用者1人あたりのコストは約600円/人です。武道館は1人、社会体育館は3人の運営体制となっています。

【図 6-3-2-11】コスト一覧表

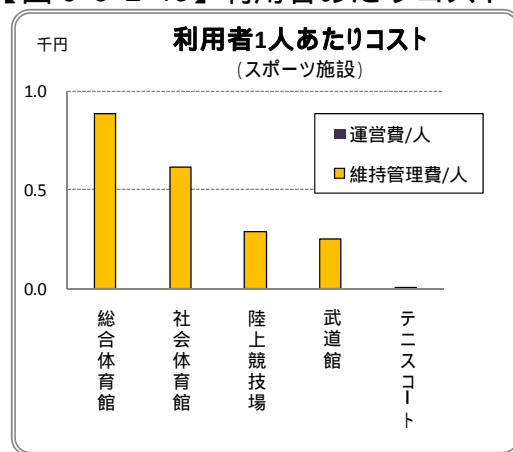
スポーツ施設	1		2		3		合計
	武道館	社会体育館	陸上競技場	総合体育館	テニスコート		
光熱水費	-	-	-	-	-	-	0
修繕費	-	-	-	-	-	-	0
外部委託料	7,709,557	9,669,000	17,335,292	149,734,985	542,738		184,991,572
使用料及び賃借料	-	-	-	-	-	-	0
備品購入費	-	-	-	-	-	-	0
工事請負費等	-	-	-	-	-	-	0
施設にかかるコスト計	7,709,557	9,669,000	17,335,292	149,734,985	542,738		184,991,572
講師等報償費	-	-	-	-	-	-	0
消耗品費等	-	-	-	-	-	-	0
通信運搬費等	-	-	-	-	-	-	0
補助金等	-	-	-	-	-	-	0
人件費	-	-	-	-	-	-	0
事業にかかるコスト計	0	0	0	0	0		0
支出合計	7,709,557	9,669,000	17,335,292	149,734,985	542,738		184,991,572
補助金等	-	-	-	-	-	-	0
使用料等	1,254,500	1,891,000	2,966,350	18,269,372	6,015,100		30,396,322
その他収入	-	-	-	-	-	-	0
収入合計	1,254,500	1,891,000	2,966,350	18,269,372	6,015,100		30,396,322
収支差額	6,455,057	7,778,000	14,368,942	131,465,613	-5,472,362		154,595,250
土地評価単価	113,000	32,700	24,700				

(借地あり)

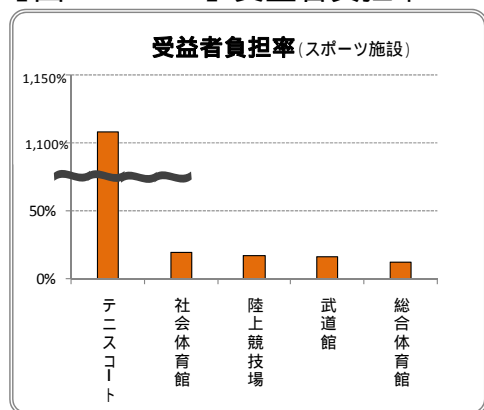
【図 6-3-2-12】コスト総額



【図 6-3-2-13】利用者あたりコスト



【図 6-3-2-14】受益者負担率



#### (5)まとめ

武道館の耐震診断では、 $I_s$  値が 0.6 の基準を下回る 0.25 という低い結果が出ました。武道館を耐震工事するか、取り壊して建替えるかの結論を早急に出す必要があります。市役所北側にあった市民体育館の取り壊しから数年経過し、各種団体からの新設体育館建設の要望が多く出ています。武道館の今後の対応は、武道館のみならず、新設体育館の建設にも大きな影響を及ぼすこととなります。

成人の月 1 回以上のスポーツ実施率は 60% を超え、市民意識が高まるなか、それを担うべき施設が不足しているのが現状です。

そうしたなかで、新設体育館を建設するには、総合体育館の現状を十分に鑑みながら、自然エネルギー利用を多く取り入れ、建設後の効率的な維持管理や運営を想定した設計テーマが必要と考えます。

なお、体育施設の利用者負担割合の目標値は 75～100% ですが、テニスコートを除いて受益者負担率は 20% 程度であり、基準に照らせばもう一段の向上が望まれます。

### 6-3-3. 観光関連施設【5施設】

#### (1) 施設の概要

観光関連施設は、川越まつり会館、産業観光館(小江戸蔵里)、観光案内所(本川越駅、川越駅、仲町)の5施設を対象とします。

川越まつり会館は、川越まつり会館条例に位置付けられています。目的は「市民の川越まつりに関する知識及び教養の向上を図るとともに、観光の振興に寄与するため」とされています。館内には本物の山車2台を展示し、大型スクリーンによるまつり当日の映像を上映しています。観覧料は、一般個人300円(20人以上の団体240円)、小中学生100円(20人以上の団体80円)です。川越まつり会館は、業務の一部を(社)小江戸川越観光協会に委託しています。

産業観光館は、川越市産業観光館条例に位置付けられ、目的は「市民の地域産業に関する理解を深めるとともに、市民と観光旅行者の交流を促進することにより地域の活性化を図るため」とされています。約120年間の歴史を持つ酒蔵を改装し、川越らしさと本物にこだわる「小江戸川越ブランド産品」、地場産新鮮野菜とそれらを生かした料理や加工品が集結し、蔵の雰囲気を生かしたくつろぎと憩いの空間で、ここにしかない川越の魅力を発信しています。なお、産業観光館は(株)まちづくり川越が指定管理者であり、利用料金制度(施設の利用料金を直接指定管理者の収入として収受させる制度)を採用しています。

観光案内所は、観光事業の振興を図るため、本川越駅、川越駅、仲町の3か所に設置され、観光情報や観光パンフレットなどの提供を行っています。観光案内所には本市職員は常駐せず、観光案内所業務は、(社)小江戸川越観光協会に委託しています。



川越まつり会館



仲町観光案内所

【図6-3-3-1】施設一覧

	施設名	所在地	面積 (㎡)				利用者数	開館時間	休館日	
			土地	うち借地	建物	うち借家				
1	川越まつり会館	元町2丁目1-10	2,818.53	0.00	1,836.24	0.00	87,047	(4-9月) 9:30-18:30 (10-3月) 9:30-17:30	第2・4水曜日 臨時休館日 年末年始	
2	産業観光館 (小江戸蔵里)	新富町1丁目10-1	3,064.09	0.00	1,710.44	0.00	332,163	(会議室・ギャラリー) 9:00-21:30 (広場) 9:00-16:00	館内整理日等 1	
3	本川越駅観光案内所	新富町1丁目22-7	2	0.00	0.00	16.53	16.53	39,065		
4	川越駅観光案内所	脇田町24-9	3	0.00	0.00	7.62	7.62	124,675	9:00-16:30	なし
5	仲町観光案内所	仲町2-3	268.46	0.00	144.74	0.00	45,445			

1 会議室・ギャラリー等以外の施設の開館時間は以下のとおり

明治蔵 10:00-18:00

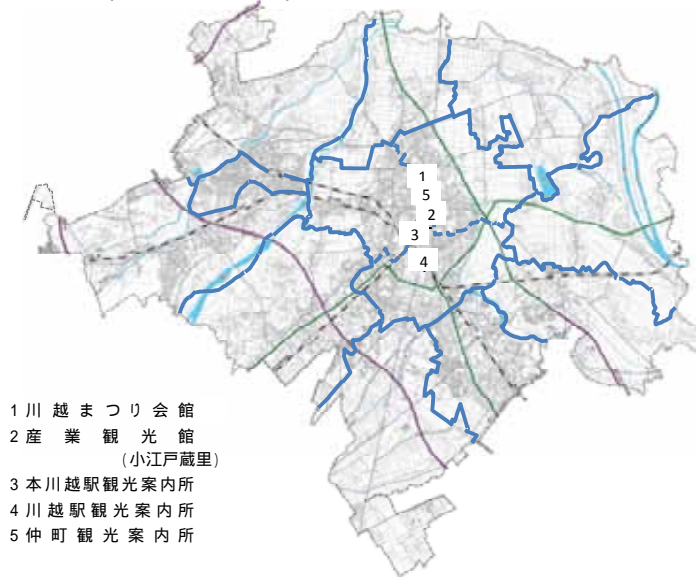
大正蔵(平日)11:00-15:00、17:00-22:00(土日祝)11:00-22:00

昭和蔵 10:00-19:00

2、3 駅改札口そばの観光案内所であり、駅施設を賃借している



### 市内配置図 (観光関連施設)



- 1 川越まつり会館
- 2 産業観光館  
(小江戸蔵里)
- 3 本川越駅観光案内所
- 4 川越駅観光案内所
- 5 仲町観光案内所

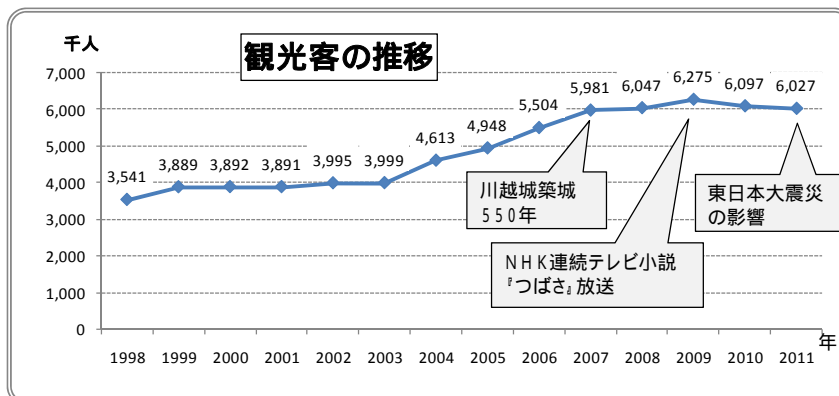
なお、『川越まつり』は川越氷川祭の山車行事として、国の重要無形民俗文化財に指定されています。また、まつりに曳き回される山車のうち 10 台が、埼玉県の有形民俗文化財に指定されています。

本市では、2008 年 3 月に「『住んでよし、訪れてよし』の観光まちづくり」を基本理念とした「川越市観光振興計画」を策定しました。計画では、観光環境の整備や新たな観光事業の推進など、本市が抱える諸課題を取り上げ、これらに対する 80 の施策を掲げています。

### (2) 利用の実態

本市は、首都圏近郊の手軽な観光地として全国的に認知されている一方、観光客の訪問地は市内中心部に偏在しています。観光客数は 1999 年から 2003 年までは 400 万人/年弱で推移してきましたが、2004 年以降は増加傾向にあります。2009 年は、NHK 連続テレビ小説「つばさ」の宣伝効果により、全国から多くの観光客が来訪し、627 万 5 千人/年を記録しました。

【図 6-3-3-2】観光客の推移



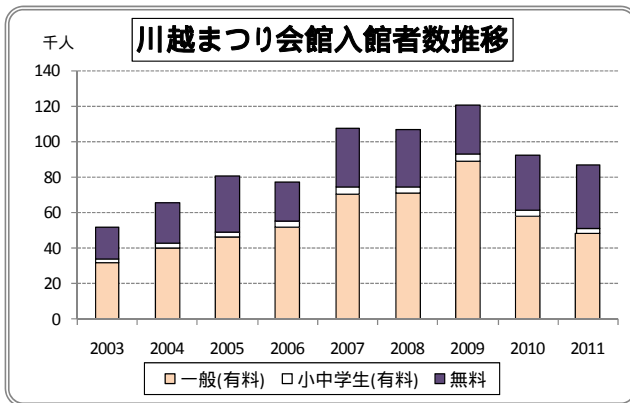
川越まつり会館及び本川越駅観光案内所、川越駅観光案内所の利用者の推移は、【図 6-3-3-3】、【図 6-3-3-4】のとおりです。産業観光館は 2010 年、仲町観光案内所は 2011 年開業のため、推移は省略しています。

川越まつり会館の入館者は、2003 年 9 月 28 日の開館以来順調に増加しており、2007 年度に 10 万人を超え、2009 年度に 12 万人に達しました。

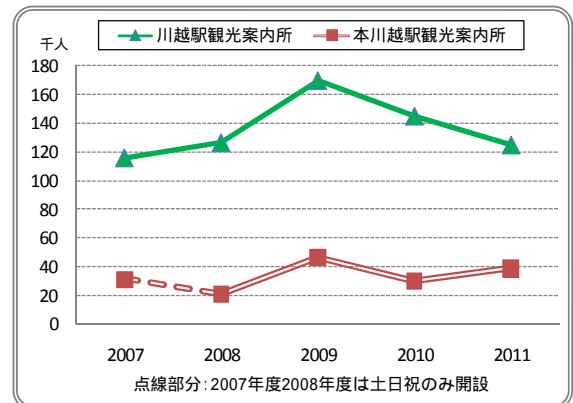
2011 年度の入館者のうち、約 55%が一般の有料入館者で、約 3%が小中学生の有料入館者、約 41%が無料の入館者です。2011 年度の開館日 1 日あたりの入館者は約 258 人です。

観光案内所は、川越駅観光案内所が 10 万人超、本川越駅観光案内所が 3 ~ 5 万人程度で推移しています。2011 年度の 1 日あたりの利用者は、川越駅観光案内所が約 342 人、本川越駅観光案内所が約 107 人、仲町観光案内所が約 125 人です。

【図 6-3-3-3】まつり会館入館者数



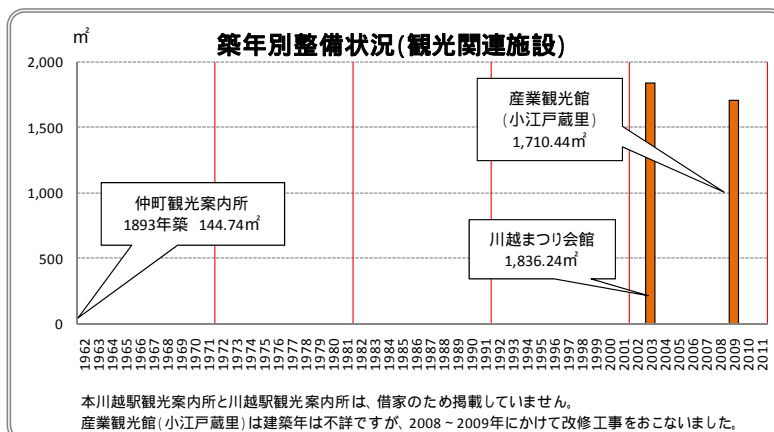
【図 6-3-3-4】観光案内所案内人数



### (3) 施設の物理的状況

仲町観光案内所は、1893 年に建てられた旧笠間家住宅を改修し、観光案内所として整備しました。土蔵ですが、耐震性能は備えています。また、産業観光館も酒蔵を改装する際に、耐震補強工事を実施しています。

【図 6-3-3-5】築年別整備状況



川越駅観光案内所は東武川越駅舎内に、本川越駅観光案内所は西武本川越駅構内にそれぞれ設置されており、施設は狭あい耐震性能には問題ありません。

【図 6-3-3-6】スペック一覧表

	施設名	構造	老朽化状況			バリアフリー						環境対応		
			建築年	経過年数	耐震補強	車椅子用エレベーター	手すり	車椅子用スロープ	障害者用トイレ	自動ドア	点字ブロック	太陽光発電	屋上・壁面緑化	環境対応設備
1	川越まつり会館	RC造	2003	9	不要								×	
2	産業観光館 (小江戸蔵里)	W造	不明		済	×	×					×	×	×
3	本川越駅観光案内所	RC造	-			×	×	×	×		×	×	×	×
4	川越駅観光案内所	S造	-			×	×	×	×	×	×	×	×	×
5	仲町観光案内所	土蔵	1893	119	不要	×	×	×	×	×	×	×	×	×

産業観光館(小江戸蔵里)は、建築年は不詳ですが2008～2009年にかけて改修工事を実施しました。

#### (4) コスト分析

産業観光館の維持管理や運営にかかるコストは、原則として指定管理者の負担となっており、施設で行う物販や飲食の提供や、会議室・ギャラリーなどの利用料で賄っています。また、市は指定管理者から200万円/年の納付金を徴収しています。

観光関連施設は、施設運営を外部委託しているため、必要となるコストの大部分は外部委託料が占めています。その中でも、川越まつり会館の維持管理や運営費に必要となる支出が多くを占めており、観光案内所3施設の合計額(約1,300万円)と比較して約5.5倍の費用がかかっています。

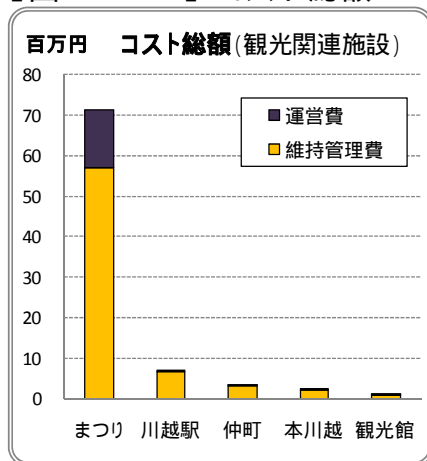
【図 6-3-3-7】コスト一覧表

	1	2	3	4	5	
観光関連施設	川越まつり会館	産業観光館 (小江戸蔵里)	本川越駅観光案内所	川越駅観光案内所	仲町観光案内所	合計
光熱水費	10,275,764	-	-	115,283	212,564	10,603,611
修繕費	965,002	1,216,950	89,250	-	-	2,271,202
外部委託料	45,662,988	-	2,171,195	5,824,518	3,240,014	56,898,715
使用料及び賃借料	53,340	-	105,000	899,640	-	1,057,980
備品購入費	-	-	-	-	-	0
工事請負費等	-	-	-	-	-	0
<b>施設にかかるコスト計</b>	<b>56,957,094</b>	<b>1,216,950</b>	<b>2,365,445</b>	<b>6,839,441</b>	<b>3,452,578</b>	<b>70,831,508</b>
講師等報償費	1,392,060	-	-	-	-	1,392,060
消耗品費等	1,624,925	-	97,333	-	98,385	1,820,643
通信運搬費等	3,814,768	98,400	-	130,154	75,600	4,118,922
補助金等	-	-	-	10,500	-	10,500
人件費	7,517,227	-	-	-	-	7,517,227
<b>事業にかかるコスト計</b>	<b>14,348,980</b>	<b>98,400</b>	<b>97,333</b>	<b>140,654</b>	<b>173,985</b>	<b>14,859,352</b>
<b>支出合計</b>	<b>71,306,074</b>	<b>1,315,350</b>	<b>2,462,778</b>	<b>6,980,095</b>	<b>3,626,563</b>	<b>85,690,860</b>
補助金等	-	-	-	-	3,158,114	3,158,114
使用料等	13,909,490	-	-	-	-	13,909,490
その他収入	-	2,000,000	-	-	-	2,000,000
<b>収入合計</b>	<b>13,909,490</b>	<b>2,000,000</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>3,158,114</b>	<b>19,067,604</b>
<b>収支差額</b>	<b>57,396,584</b>	<b>-684,650</b>	<b>2,462,778</b>	<b>6,980,095</b>	<b>468,449</b>	<b>66,623,256</b>
土地評価単価	156,000	248,000	借家	借家	160,000	

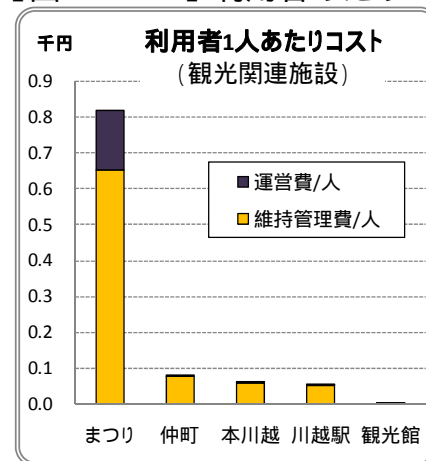
利用者 1 人あたりの比較でも、川越まつり会館は観光案内所の 10～15 倍のコストがかかっています。

観光案内所の利用は無料ですが、川越まつり会館は観覧料を徴収しており、その収入がコストに占める割合(受益者負担率)は、約 19.5%です。

【図 6-3-3-8】コスト総額

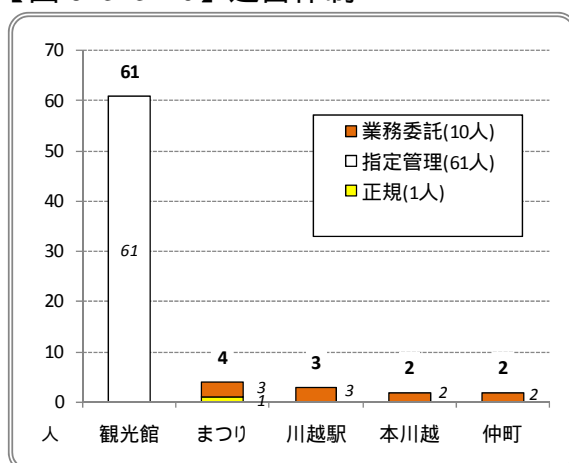


【図 6-3-3-9】利用者あたりコスト



産業観光館には物販や飲食部分を含めて、指定管理者が計 61 人の社員を配置しています。川越まつり会館は 1 人の市職員と 3 人の委託職員が、川越駅観光案内所は 3 人、本川越駅及び仲町観光案内所は 2 人の委託職員が業務に従事しています。

【図 6-3-3-10】運営体制



### (5)まとめ

観光関連施設には、耐震性能などに問題がある施設はありません。また、指定管理者制度や外部委託を活用して、比較的効率的な運営が行われています。

川越まつり会館は観光案内所と比較して、コストがかかっていますが、川越まつりに関する知識の向上を図り、観光の振興と商業の活性化に寄与するための中核施設としての役割を担っています。受益者負担率は20%程度ですが、利用が選択的な公共施設であり、利用者負担の目標値(50%)に向けて、もう一段の向上が望まれます。また、指定管理者制度の導入などにより、川越まつり会館を活用した各種事業や普及活動に民間のノウハウを活かすことも効果的と考えます。

#### 6-3-4. 集会施設【2施設】

##### (1) 施設の概要

集会施設は、「単独設置施設」として、施設機能や行っている事業、対象者などに特徴を持つ中高年齢労働者福祉センター(サンライフ川越)、農業ふれあいセンターの2施設を対象とします。

中高年齢労働者福祉センター(サンライフ川越)は、川越市中高年齢労働者福祉センター条例で位置付けられています。基本的な利用者の範囲を中高年齢労働者(45歳以上の労働者)とし、心身の健康の保持及び教養の向上の施設です。また、講座、講習会などの開催がセンターの業務とされています。中高年齢労働者福祉センターは、(財)川越市勤労者福祉サービスセンターが指定管理者になっています。

農業ふれあいセンターは、川越市農業ふれあいセンター条例で位置付けられています。目的は「市民が農業体験を通じ農業に対する理解を深めるとともに、農業関係者に研修の場を提供することによりその資質の向上を図る」とされています。

農業ふれあいセンターは、施設としてのセンターに加えて、鴨田ふれあい農園及び体験農園から成り立っており、伊佐沼農産物直売所、伊佐沼庵(旧戸田家住宅)と隣接しています。鴨田ふれあい農園は、野菜や草花を育て、土に親しむ場・農作業体験の場として、センター北側に1区画30㎡(6m×5m)で約340区画を開設しています。利用期間は3/1～翌々年1/15までで利用料金は12,000円、2012年3月現在、全ての区画が利用されています。

伊佐沼農産物直売所は、市民に安全・安心で新鮮な地場農産物を供給し、地産地消を推進するため整備され、この地区を中心に直売活動を行ってきた農業者団体が地域農業の発展を理念に運営しています。営業時間は、9:30～17:30です。伊佐沼庵は、旧戸田家住宅を改修し、地元食材を提供する食堂として整備しました。伊佐沼庵では、地元の農家女性が伊佐沼農産物直売所内で作った地場産の小麦粉を使用したうどんを提供しています。営業時間は、11:00～14:00までですが、売切れ次第終了です。両施設ともセンター施設と同様に毎週月曜日及び年末年始が定休日です。



中高年齢労働者福祉センター



農業ふれあいセンター

【図6-3-4-1】施設一覧

	施設名	所在地	面積 (㎡)				運営主体	利用者数	開館時間	休館日
			土地	うち借地	建物	うち借家				
1	中高年齢労働者福祉センター(サンライフ川越)	芳野台1丁目103-57	2,055.70	0.00	1,349.98	0.00	指定管理	20,344人	(平日) 9:00～21:00	毎週月曜日
2	農業ふれあいセンター	伊佐沼887	20,122.00	1,908.00	2,374.98	0.00	直営	43,371人	(日曜・祝日) 9:00～17:00	年末年始

農業ふれあいセンターの利用者数には、緑地広場、ゲートホール場などの利用者を含みます。

### 市内配置図 (集会施設)



### (2) 利用の実態

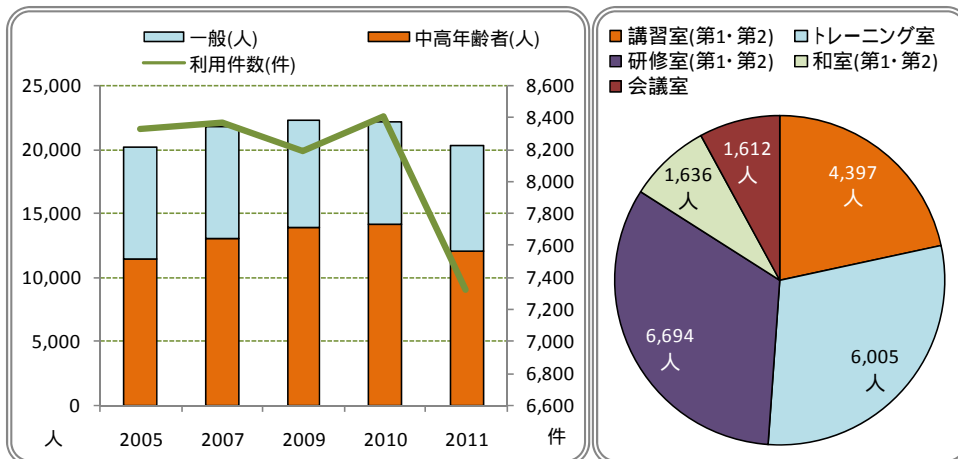
中高年齢労働者福祉センターの利用件数は 8,000 件/年前後で推移しています。利用者は 20,000 人/年程度ですが、中高年齢者の利用が約 6 割、それ以外の一般利用が約 4 割で、2011 年度の開館日 1 日あたりの利用者は約 66 人です。

2011 年度の用途別の利用状況は、利用件数ではウェイトトレーニングができるトレーニング室の利用が約 8 割ですが、トレーニング室は個人利用が多く、利用者数は研修室が一番多くなっています。

なお、講習室はエアロビクススタジオとして使用可能です。また、研修室 1 と 2 及び和室 1 と 2 は、つなげて一つの部屋として使用できます。

また、中高年齢労働者福祉センターでは、施設目的事業として指定管理者が中高年齢労働者向けの各種教室を開催しています。

【図 6-3-4-2】中高年齢労働者福祉センターの利用者数の推移と内訳

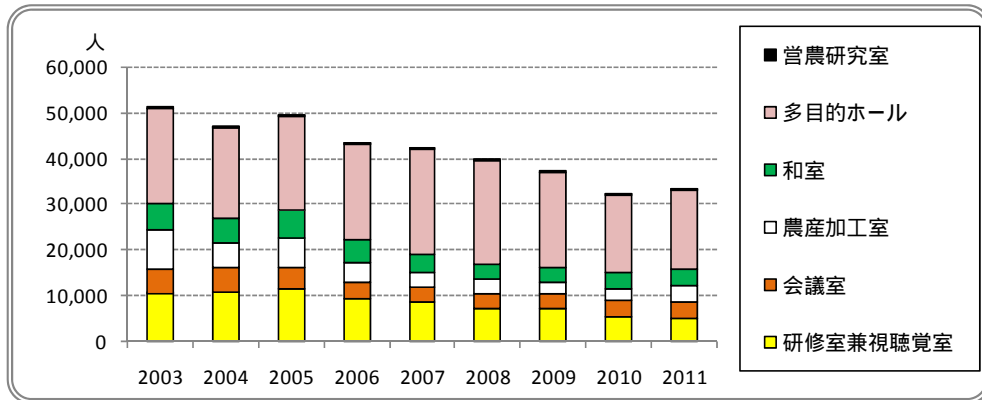


農業ふれあいセンターの館内利用者数は、2005年度ごろまで約5万人でしたが、最近では3万人強で推移しており、2011年度の開館日1日あたりの館内利用者は約108人です。

2011年度の用途別の利用状況は、多目的ホールの利用が約半分で、利用率は90%を超えますが、その他の部屋の利用率はおおむね30～50%です。

施設の貸出業務のほかに、自主事業として農業体験(年6回)、伝承料理教室(年6回)、農業大学講座(年1回)を実施しています。また、春にれんげまつり、秋にセンターまつりを開催し、その他に営農相談(毎月1回)、味噌づくり指導(9～4月)、市民農園の管理補助、農産物直売所の運営指導などを実施しています。

【図6-3-4-3】農業ふれあいセンターの館内利用者数の推移と内訳

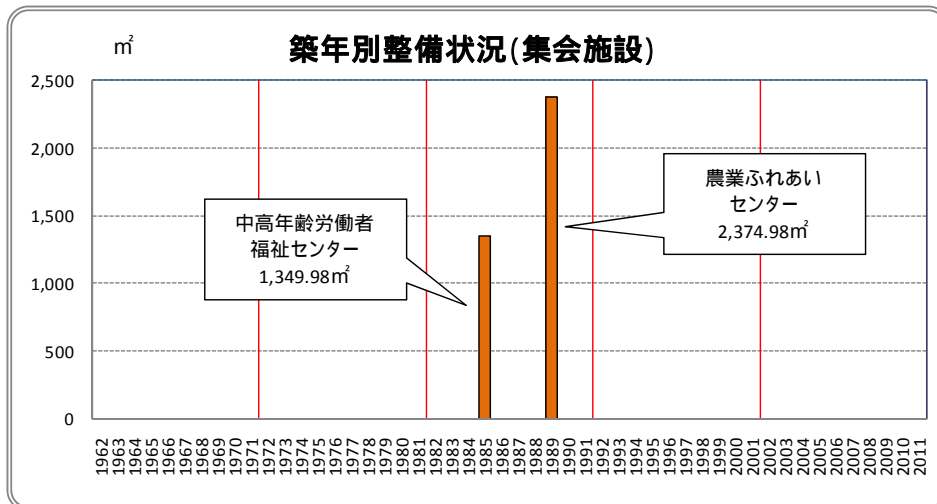


(3)施設の物理的状況

集会施設の2施設は全て新耐震基準で設計されています。

特に老朽化が著しい施設はありませんが、農業ふれあいセンターの多目的ホールは雨漏りのため荒天時に利用を制限する場合があります、農産加工室・給湯室も恒常的に雨漏りがあります。

【図6-3-4-4】築年別整備状況





【図 6-3-4-5】スペック一覧表

	施設名	構造	老朽化状況		耐震補強	バリアフリー					環境対応			
			建築年	経過年数		車椅子用エレベータ	手すり	車椅子用スロープ	障害者用トイレ	自動ドア	点字ブロック	太陽光発電	屋上・壁面緑化	環境対応設備
1	中高年齢労働者福祉センター (サンライフ川越)	RC造	1985	27	不要	×	×					×	×	×
2	農業ふれあいセンター	RC造	1989	22	不要	×						×		×

(4)コスト分析

中高年齢労働者福祉センターは指定管理者制度を導入し、発生するコストは外部委託料のみです。中高年齢労働者福祉センターは「6-3-2. スポーツ施設」で記載した社会体育館と一体で管理しています。

農業ふれあいセンターは業務の一部を外部委託し、コスト総額は約4,500万円です。ただし、これ以外にも体験農園運営管理として約200万円の費用があります。農業ふれあいセンターは、13人体制で業務に従事しています。

利用者1人あたりの比較では、中高年齢労働者福祉センターが約1,200円/人、農業ふれあいセンターは約1,000円/人です。

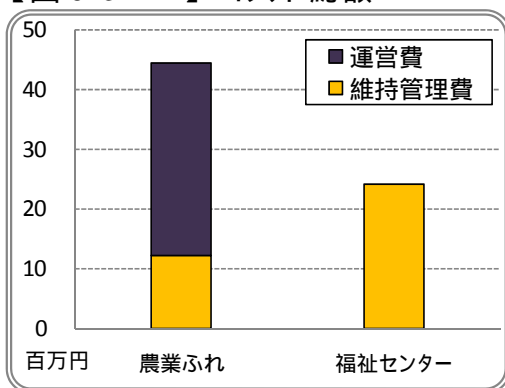
受益者負担率は中高年齢労働者福祉センターが約10%、農業ふれあいセンターが約6%です。農業ふれあいセンターには「その他収入」として行政財産の使用にかかる収入が約120万円あります。

【図 6-3-4-6】コスト一覧表

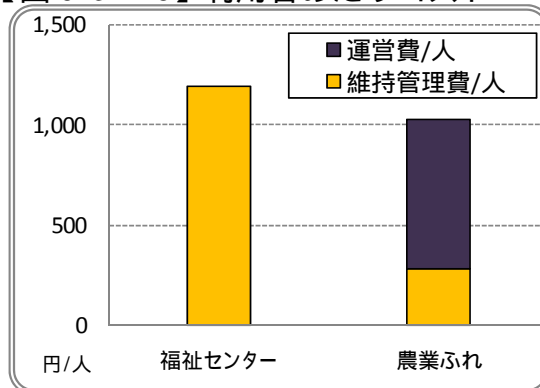
		1	2	
集会施設		中高年齢労働者福祉センター	農業ふれあいセンター	合計
施設	光熱水費	-	3,168,697	3,168,697
	修繕費	-	910,088	910,088
	外部委託料	24,253,000	8,173,482	32,426,482
	使用料及び賃借料	-	21,967	21,967
	備品購入費	-	-	0
	工事請負費等	-	161,130	161,130
施設にかかるコスト計		24,253,000	12,435,364	36,688,364
事業	講師等報償費	-	251,500	251,500
	消耗品費等	-	1,066,877	1,066,877
	通信運搬費等	-	882,688	882,688
	補助金等	-	400,000	400,000
	人件費	-	29,671,730	29,671,730
事業にかかるコスト計		0	32,272,795	32,272,795
支出合計		24,253,000	44,708,159	68,961,159
収入	補助金等	-	-	0
	使用料等	2,340,400	2,487,350	4,827,750
	その他収入	193,530	1,252,584	1,446,114
収入合計		2,533,930	3,739,934	6,273,864
収支差額		21,719,070	40,968,225	62,687,295
土地評価単価		32,700	25,900	

(借地あり)

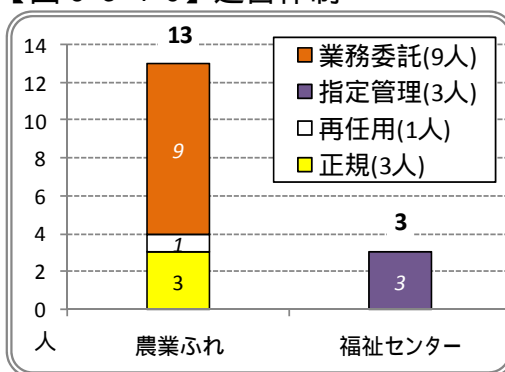
【図 6-3-4-7】コスト総額



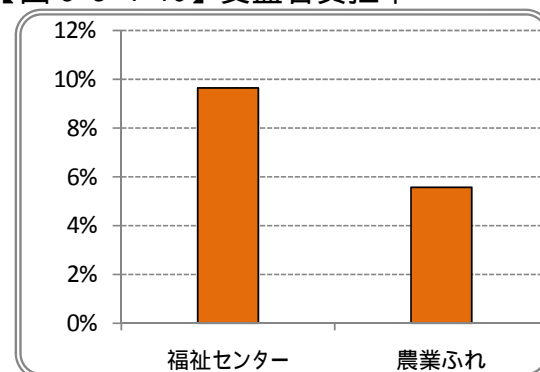
【図 6-3-4-8】利用者あたりコスト



【図 6-3-4-9】運営体制



【図 6-3-4-10】受益者負担率



(5)まとめ

集会施設は、耐震性能に問題はありません。指定管理者制度や外部委託を活用して、比較的効率的な運営が行われています。

農業ふれあいセンターの利用者数は、減少傾向にあり、何らかの改善策が必要と考えられますが、新農業構造改善事業として国庫補助を受けて設置した点に留意が必要です。また、2011年は東日本大震災の被災者避難所として活用されました。